

地域情報（県別）

【愛知】東海3県公立病院で手術支援ロボットHugo（ヒューゴ）を初導入-成瀬友彦・春日井市民病院院長らに聞く◆Vol.1

新手術室を作り、泌尿器科医、麻酔科医も大幅増員

2024年8月16日（金）配信 m3.com地域版

春日井市民病院は、手薄であった泌尿器科の診療内容充実のため、手術支援ロボットHugo（ヒューゴ）を導入し、着々と実績を重ね始めている。成瀬友彦院長と高井峻泌尿器科部長に、ロボット導入の経緯や体制、展望について聞いた。（2024年6月14日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら

手薄だった泌尿器科診療を充実させたい

——そもそもロボット手術にはどんなメリットがあるのでしょうか。

高井 ロボット手術は低侵襲だけでなく、手術の質を向上できる選択肢です。関節の360度回転などロボットしかできない動きや、術者の手ぶれ防止機能、さらに手術箇所を拡大して見ることができるなど、腹腔鏡よりもメリットが大きい部分があります。泌尿器科や産婦人科などの手術箇所が隠れている分野でロボット手術を導入するメリットは大きく、特に泌尿器科では、2012年から前立腺全摘手術のロボット手術がいち早く保険適用となり、現在ではロボット手術が必須になってきているほどです。



前立腺全摘ロボット手術の様子（春日井市民病院提供写真）

——春日井市民病院で手術支援ロボットを導入した目的は何ですか。

成瀬 当院は人口約30万人の春日井市民を支える市立病院ですが、2022年まで泌尿器科の常勤医師が1人しかいませんでした。近年は健康診断などでPSA値を測定していますし、前立腺がんの早期発見数は増加しているのに、対応できる人員体制ではなかったんです。一方で近隣の小牧市民病院は泌尿器科が充実しており、当院は小牧市民病院に患者を紹介や搬送することもありました。結果として、小牧市民病院の泌尿器科がほとんど2病院分の患者を診療していたことになります。小牧市民病院には負担をおかけしていたと感じます。

そこで泌尿器科の医師を増員すべく、数年前から環境の整備を考え始めました。まずは手術支援ロボットがなくては、若手医師も集まらないと考えたのです。名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学教室の赤松秀輔教授に相談したところ、従来は先進的な機器や設備は大学病院が導入し、そこで新たな医療技術に精通した医師を育てていました

が、それだけでは不十分で、近隣の関連病院も設備を導入して人材を育成し、地域医療へ人材貢献するのも良いのではないかと、後押しを得ました。春日井市長のサポートもあり、手術支援ロボット導入を決めました。

■ 新手術室を作り、泌尿器科医、麻酔科医も大幅増員

——手術支援ロボットといえばダビンチが有名ですが、なぜHugoを選んだのですか。

成瀬 今やダビンチが主流ですが、ダビンチはちょっと高価なんです。ダビンチは購入を検討した4年ほど前で約3億円、hinotoriとHugoは約2億円でした。機器のバージョンアップのタイミングも先で、購入時点で少し古いモデルになってしまうことも考慮しました。その上で、Hugoはメドトロニックという手術器具大手が製造しており、今後の発展やデバイスの充実に期待ができると感じたんです。まだ導入例が少なく、県内でも2例目、東海3県の公立病院では最初に当たることから、Hugoの指導において先駆的な立場をとれることもメリットだと考えました。Hugoの能力について外科、産婦人科などの医師に触ってもらって意見を求めましたが、ダビンチから大きく劣るような印象はなかったです。

高井 Hugoはダビンチと違ってオープンコンソールなので、助手とコミュニケーションしやすいですし、声もこもりません。アームが独立していて、患者の体格や手術中の体位に応じて位置が調整できるというメリットもあります。ダビンチ以外の選択肢として、申し分ないと思います。



左から成瀬友彦氏、高井峻氏

——Hugo導入に際して、どのように体制を整えましたか。

成瀬 2022年に新棟を建設する際に、3階に広い手術室を2つ設けました。3〜4室にしようという意見もあったのですが、Hugoなどの機器・設備の導入を見据えて、大きな空間を確保しました。大きい分には、必要に応じて区切ればいいですね。ロボットなど大きな機械を入れると床が抜けてしまう例もあるそうで、今回は少なくともHugoの導入を想定した建築としました。

また、人員体制を強化すべく、ロボット手術に精通している高井先生と奥村敬子先生、上川裕輝先生を迎え、泌尿器科の常勤医が4人になりました。さらに麻酔科医も増やして、効率よく手術ができるようにしたんです。2年前は麻酔科医が2人でしたが、2024年は11人まで増員しています。泌尿器科に限りませんが、緊急の全身麻酔手術数は、それまで年間300〜320件だったものが、2023年度実績で405件まで増加しました。Hugoの導入に向けた取り組みが、当院の手術環境全体にもよい影響を及ぼしています。

◆成瀬 友彦（なるせ・ともひこ）氏

1989年名古屋大学医学部卒業。市立四日市病院、名古屋大学医学部附属病院などを経て、1997年春日井市民病院入職。

2019年より現職。日本腎臓学会専門医、指導医、評議員、日本透析医学会専門医、指導医、評議員。名古屋大学医学部医

学科臨床教授。

◆高井 峻（たかい・しゅん）氏

2008年名古屋大学医学部卒業。市立四日市病院、名古屋大学医学部附属病院、小牧市民病院などを経て、2024年春日井市民病院、泌尿器科部長、ロボット手術センター部長。日本泌尿器科学会専門医、指導医、日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、代議員、日本排尿機能学会代議員、ダビンチ膀胱・前立腺プロクター、副腎・腎（尿管）プロクター、Hugo膀胱・前立腺プロクター。

【取材・文・撮影＝鈴木満優子】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

